

出資団体台帳

出資団体名	39.株式会社サンサンあさひ
-------	----------------

所管課	商工振興課

1. 出資団体概要 (令和6年4月1日現在)

①法人分類	株式会社 ()			
②業務分類	観光・レジャー ()			
③主な活動範囲	市内規模 ()			
④所在地	高山市朝日町万石150番地			
⑤設立年月日	平成16年12月3日			
⑥従業員数	役員	(常勤) 0 人	(非常勤) 9 人	
	正社員	(常勤) 1 人	(内出向) 0 人	
⑦役員等	役職名	氏名	市所屬・職位	
	代表者 役員			
⑧資本金 18,000 千円				
	出資者	資産種別	出資額 出資割合	
	高山市	出資金	8,750千円 48.6%	
	他自治体		0.0%	
	その他	出資金	9,250千円 51.4%	
	【備考】			

⑨設立目的			
定款に掲げる主な事業内容		現在の実施の有無	主な受益者
道の駅関連施設の管理運営に関する事業		実施 理由 ()	観光客
観光案内に関する業務		実施 理由 ()	観光客
キャンプ場及びその関連施設の管理運営に関する事業		実施 理由 ()	施設利用者
飛騨地方の地場特産品の販売		実施 理由 ()	事業者
農林畜産物の加工及び販売		実施 理由 ()	事業者
各種イベントの企画運営管理		実施 理由 ()	地域
民芸品の販売		実施 理由 ()	事業者
飲食店の営業		実施 理由 ()	施設利用者
野菜類、果樹類、魚類の加工品の製造及び販売		実施 理由 ()	事業者
		理由 ()	
⑩地域の関わり	朝日地域における観光振興や地域振興に関わる事業を展開し、観光交流による地域活性化と地域産業の振興を図っており、地域住民からの出資や役員就任により運営されている。地域農産物の販売や観光協会等との連携など、地域住民の関わりも強く、地域の雇用促進にも繋がっている。		
⑪市民の関わり	市民の利用が多い、多目的施設の「こだま館」「やすらぎ館」の維持管理・運営の指定管理を受けていることや、地域の農産物や工芸品を直売所において販売していることなどから、市民との関わりは深い。		
⑫経緯			
出資時の状況	H12 朝日村が道の駅ひだ朝日村の開設にあたり、資金30,000千円（100%）を出資して財団法人サンサンあさひを設立し、売店・食堂の営業等を始めた。		
その後の経緯	H16.12 民間主体の法人とすることにより、更なる事業の拡大を図るため、資金8,750千円を出資（従前の財団法人への出資金は清算）して第3セクターとして株式会社サンサンあさひを創立し、現在、関連する各施設の指定管理者となっている。		

2. 事業概要

①事業	②市事業	③種別	④業務内容、状況、課題等 (施設がある場合は、施設ごとの状況、公共施設等総合管理計画における方針を記入)	⑤事業収支	⑥定性的評価		
					市による 関与の必要性	民間による 代替性	事業の 採算性
高山市指定管理業務 「道の駅ひだ朝日村」	○	指定管理事業	【道の駅ひだ朝日村】☞「継続」 R5納入金 1, 179千円 (付帯施設) R5指定管理料 519千円 (こだま館) R5指定管理料 569千円 (やすらぎ館) 【胡桃島キャンプ場】☞「継続」 R5指定管理料 1, 608千円	赤字	有	無	有
管理運営業務 「道の駅ひだ朝日村」	○	受託事業	【道の駅ひだ朝日村】☞「継続」 R5管理委託料 6, 320千円	赤字	有	無	有

3. 財務状況												
(1) 貸借対照表			(令和2年3月31日)		(令和3年3月31日)		(令和4年3月31日)		(令和5年3月31日)		(令和6年3月31日)	
項目			平成31年度 第 16 期		令和2年度 第 17 期		令和3年度 第 18 期		令和4年度 第 19 期		令和5年度 第 20 期	
			決算額	前年比増減	決算額	前年比増減	決算額	前年比増減	決算額	前年比増減	決算額	前年比増減
資産の部合計	A		10,544 千円	33.3 %	14,463 千円	37.2 %	13,437 千円	▲7.1 %	14,280 千円	6.3 %	14,902 千円	4.4 %
	流動資産	B	10,423 千円	47.3 %	14,432 千円	38.5 %	13,417 千円	▲7.0 %	14,272 千円	6.4 %	14,902 千円	4.4 %
	固定資産	C	121 千円	▲85.5 %	31 千円	▲74.4 %	20 千円	▲35.5 %	8 千円	▲60.0 %	0 千円	▲100.0 %
	繰延資産		0 千円		0 千円		0 千円		0 千円		0 千円	
負債の部合計			2,208 千円	▲28.2 %	4,168 千円	88.8 %	2,481 千円	▲40.5 %	3,031 千円	22.2 %	3,141 千円	3.6 %
	流動負債	D	2,161 千円	▲9.2 %	4,168 千円	92.9 %	2,481 千円	▲40.5 %	3,031 千円	22.2 %	3,141 千円	3.6 %
	(うち借入金)	E										
	固定負債		47 千円	▲93.2 %	0 千円		0 千円		0 千円		0 千円	
	(うち借入金)	F										
純資産の部	G		8,336 千円	72.4 %	10,294 千円	23.5 %	10,955 千円	6.4 %	11,249 千円	2.7 %	11,761 千円	4.6 %
	資本金		18,000 千円	0.0 %	18,000 千円	0.0 %	18,000 千円	0.0 %	18,000 千円	0.0 %	18,000 千円	0.0 %
	利益剰余金等		▲ 9,664 千円	26.6 %	▲ 7,706 千円	20.3 %	▲ 7,045 千円	8.6 %	▲ 6,751 千円	4.2 %	▲ 6,239 千円	7.6 %
健全性指標	債務超過の有無 (G)	目標：無	無	－	無	－	無	－	無	－	無	－
	自己資本比率 (G/A)	目標：50%以上	79.1%	29.4 %	71.2%	▲10.0 %	81.5%	14.5 %	78.8%	▲3.4 %	78.9%	0.2 %
	流動比率 (B/D)	目標：150%以上	482.3%	62.3 %	346.3%	▲28.2 %	540.8%	56.2 %	470.9%	▲12.9 %	474.4%	0.8 %
	固定比率 (C/G)	目標：100%以下	1.5%	▲91.6 %	0.3%	▲79.3 %	0.2%	▲39.4 %	0.1%	▲61.0 %	0.0%	▲100.0 %
	借入金依存度 (A/E+F)	目標：前年比較減	0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	

(2) 損益計算書			(平成31年4月1日～令和2年3月31日)		(令和2年4月1日～令和3年3月31日)		(令和3年4月1日～令和4年3月31日)		(令和4年4月1日～令和5年3月31日)		(令和5年4月1日～令和6年3月31日)	
			平成31年度 第 16 期		令和2年度 第 17 期		令和3年度 第 18 期		令和4年度 第 19 期		令和5年度 第 20 期	
			決算額	前年比増減	決算額	前年比増減	決算額	前年比増減	決算額	前年比増減	決算額	前年比増減
営業収益			61,221 千円	0.1 %	54,867 千円	▲10.4 %	58,465 千円	6.6 %	66,237 千円	13.3 %	68,047 千円	2.7 %
営業費用			60,751 千円	▲0.4 %	52,717 千円	▲13.2 %	57,369 千円	8.8 %	65,636 千円	14.4 %	67,157 千円	2.3 %
	(うち売上原価) (対営業収益比率)		(24,521 千円)	(40.1%)	(17,994 千円)	(32.8%)	(19,488 千円)	(33.3%)	(24,835 千円)	(37.5%)	(26,326 千円)	(38.7%)
	(うち人件費) (対営業収益比率)		(36,230 千円)	(59.2%)	(34,723 千円)	(63.3%)	(37,881 千円)	(64.8%)	(40,801 千円)	(61.6%)	(40,860 千円)	(60.0%)
〈営業損益〉			470 千円	154.1 %	2,150 千円	357.4 %	1,096 千円	▲49.0 %	602 千円	▲45.1 %	861 千円	43.0 %
営業外損益			91 千円	9,000.0 %	14 千円	▲84.6 %	0 千円		46 千円		28 千円	
〈経常損益〉			561 千円	201.6 %	2,164 千円	285.7 %	1,096 千円	▲49.4 %	602 千円	▲45.1 %	889 千円	47.7 %
〈当期純損益〉			376 千円	37,500.0 %	1,958 千円	420.7 %	660 千円	▲66.3 %	294 千円	▲55.5 %	512 千円	74.1 %

〈評価分析〉	自己資本比率が平成30年度以降70%以上で推移しており、借入金もなく、財務状況は健全と言える。流動比率も高く、経営面での安全性も高い。
--------	---

4. 市の財政的関与									
区分	平成31年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度
出資金	8,750 千円		8,750 千円		8,750 千円		8,750 千円		8,750 千円
負担金、補助及び交付金									
指定管理料	2,024 千円		7,165 千円		8,562 千円		4,429 千円		2,696 千円
その他（道の駅管理委託料）	5,740 千円		5,780 千円		5,780 千円		5,780 千円		6,320 千円
備考	〈指定管理料〉	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	
	ひだ朝日村	（一）	（一）	（一）	4,930千円	5,205千円	2,103千円	（一）	
	（朝日やすらぎ館）	403千円	403千円	385千円	556千円	558千円	556千円	569千円	
	（朝日こだま館）	233千円	233千円	446千円	500千円	512千円	500千円	519千円	
	胡桃島キャンプ場	777千円	1,118千円	1,193千円	1,179千円	2,287千円	1,270千円	1,608千円	
	〈納入金〉	(1,440千円)	(1,440千円)	(1,179千円)	(773千円)	(857千円)	(1,162千円)	(1,179千円)	

5. 課題等

項目			市所管課	団体
S W O T 分 析	内部分析	強み	・道の駅、キャンプ場、多目的施設の運営に携わり、観光客や市民双方の利用がある。	
		弱み	・朝日地域の人口減少や高齢化に伴う担い手不足 ・資本金依存の経営体質	
	外部分析	機会	・上ヶ洞トンネル開通や高根町側の国道361号線改良や高地トレーニングエリアとの連携により、客足の増加が見込まれる。 ・キャンプブームによる、キャンプ場利用客の増加	
		脅威	・天候の影響や、自然災害により施設を閉鎖するなど予期せぬ事態が発生した際に来客数が減少する。	
事業面 （必要性、公益性、採算性、収益性など）			・地場産品などの物販の拠点であり、地域住民の雇用による住民のやりがいの創出、観光客の受け入れによる外貨の獲得、地域住民等の交流の拠点、地域の魅力の発信等に繋がっている。	
財政面 （財務状況の現状や将来の見通しなど）			・コロナ禍の影響により営業利益が落ち込んだが、営業収益は戻りつつある。	
施設・設備 （所有する建物や設備等の状況など）			・市の施設であるため、所有する資産はなし。	
組織・人員体制 （役員や従業員等の状況など）			・常勤従業員1名と臨時雇用に頼る部分が多くマンパワーに欠ける。 ・常勤従業員はまだ50代であるが、その後の後継者候補の選定が必要	
公共施設等総合管理計画 （方針と今後の考え方）			道の駅：継続 胡桃島キャンプ場・ロッジ：譲渡	
自由記載 （団体や事業の今後のあり方や果たすべき役割について）				